

ページをめくる 世界が広がる



『ユニコーンレター ストーリー』

著：北澤 平祐
出版社：ホーム社

同じ日に同じ病院で生まれたハルカとミチオは、ミチオがアメリカに引っ越したことをきっかけに文通を始めます。日本とアメリカという異なる環境での学校生活や友人関係、趣味に進路と、何気ない話から悩みまでを手紙で交換しあいます。二人が書く手紙と実際の様子を、イラストで見比べながら読むのが楽しい物語です。



『穴』

作：ルイス・サッカー
出版社：講談社

14歳のスタンリーは、無実の罪で砂漠にある矯正施設へと連れてこられます。そこでの仕事は、ひたすら穴を掘ること。残酷な女所長のもと、毎日体力が尽きるまで穴を掘る過酷な生活の中、遂にスタンリーは施設で出会った友人と共に、脱走を決意します。

徐々に明かされる少年たちの因縁と、「穴」の真実が読み手を引き込む冒険小説です。

『天と地の方程式1』

著：富安 陽子
出版社：講談社

抜群の記憶力をもつ少年・有礼は、開校間もない中学校へ転校してきました。ある日、有礼が校内を散策していると、突然人っ子一人いない異空間に閉じ込められてしまいます。戸惑いつつも有礼は、出口を探し始めましたが、今度は一つ目の蜘蛛に襲われます。

特殊能力をもつ少年たちが活躍する学園異能ファンタジーです。



『ココロノナカノノ』

著：戸森 しるこ
出版社：光村図書出版

主人公の寧音は生まれる前に、双子の妹・野乃を亡くしています。中学生になってからも、寧音の心の中には野乃がいて、ときどき話しかけたり、抛り所にしたりと特別な存在として思い続けていました。しかし、母親の妊娠をきっかけに、寧音のなかの野乃の存在が少しずつ変化していきます。



『かわらばん屋の娘』

作：森川 成美
出版社：くもん出版

時は江戸時代、13歳の吟は、流行り病で亡くなった母の代わりに父の稼業のかわらばん屋の手伝いをしていました。「かわらばん」とは、今でいう新聞のことで、庶民にニュースを伝えるもの。ところがある日、見世物小屋の主人がやってきて、吟たちに「ニセモノの人魚を作って一儲けしよう」と持ちかけてきます。

それでも、日本人は「戦争」を選んだ

加藤陽子
歴史人文学講座
朝日出版

普通のよき日本人が、世界最高の頭脳たちが、「もう戦争じゃない」と思ったのはなぜか？
高校生に語る——日本近現代史の最前線。

『それでも日本人は「戦争」を選んだ』

著：加藤 陽子
出版社：朝日出版

日本は近代以降、日清戦争から太平洋戦争まで4つの対外戦争を経験しました。時の指導者はどのような考えで戦争をする道を選んだのでしょうか。戦争が国際関係、地域秩序、国家や社会にどのような影響を及ぼし、戦争前後でどのような変化があったのか。自分が当事者だったらどのように考えたか。白熱したやりとりが飛び交う、中高生対象の集中講義をまとめた、単に暗記物ではない、歴史を掘り下げた一冊。

